

6 月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

ふだんの豊川は穏やかな川で、夏になれば川沿いで水遊びをする人が多く見られるし、冬には賀茂橋から上流を眺めると川幅がかなり狭まっていて、これならば歩いて渡れるのではないかと思ってしまうようなところもある。しかし、大雨が降ると豊川はまったく違った表情を見せる。90年代の資料ではあるが、豊川の河況係数（最大流量が最小流量の何倍かという数値）は8000を超え（つまり、台風等の大雨が降った時に、最小流量の8000倍の水が流れるということ）、天竜川の8倍、木曽川の45倍にもなる。

写真は当日早朝までの24時間で148.5mm（新城のアメダスの記録による）の降水量を記録した6月15日の豊川の様子。豊橋ではそこまで雨が降っていなかったのですが、そんなに大したことはないだろうと思っていたのだが、豊川はまるで台風の後のような風景だった。しかし、これでもまだましな方で、吉田城のすぐ下の遊歩道が完全に水に浸かることも稀ではないし、2023年6月2日の集中豪雨の時は4ヶ所ある霞堤がすべて浸水している。

こういう風景を見るにつけ、豊川は決して油断してはいけない川だということを思い知らされる。



豊川放水路分流堰。増水時には中央の可動ゲートが開かれている。下は通常時の写真。冬場はゲート下流に水が溜まることもない。

豊川放水路分立堰の上流側。通常は左岸に砂が堆積した岸が見られるが、この日はこの岸はもちろん、対岸に見える林の手前の草原まで水に浸かっていた。